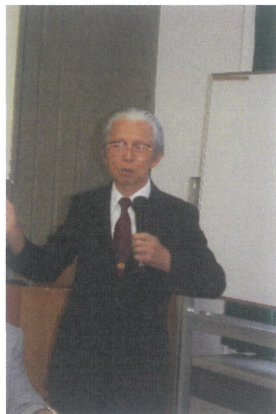


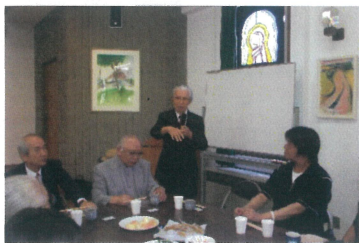
平和聖日

去る八月七日（第一主日）野毛山キリストの教会では平和聖日として礼拝をささげました。元日本バプテテスト同盟 戦争責任悔い改め委員

長 海老坪眞先生より「あなたは敵を愛せまうか」というメッセージをいただきました。先生が出席された二人の方の生き方を通し、平和を愛する心を示された。政治の原点であるイエスキリストによって真の平和がとおとされるということを示されました。イエスキリストが「敵を愛しなさい」ということは、非常に難しいことですが、その言葉が改められて、イエスキリストが十字架にかかり、ゆるし、和解を与え、私たちが一人ひとり愛していただくことが大切であると学びました。平和を求めていくことが大切であると学びました。朝食後は、特攻隊であった海老坪先生の体験をお聞きしました。沖縄に向かつて二六六九機もの飛行機が飛行し、ほとんどは途中で攻撃され、無数の飛行機と命が海に沈んでいった。青い海も赤く見えたという先生の話しから戦争の悲惨さがしみじみと伝わってきました。



海老坪 眞 先生



出席 主日礼拝 55人
平和を語る会 77人

平和について考えよう

ジュニアチャーチ 高三 榊 良太 ジュニアチャーチ

ジュニアチャーチではこれまでキリストによる平和といふのちについて考えてきました。特に今年には戦後六〇年ということもあり、平和であることの大切さ、いのちの尊さについてもより、一層考えなくては行けない年であると感じました。まず、キリストによる平和とは、作り出すものではなく、実現させるものであり、ひとりひとりが自分自身にできることを考え、「平和の使者」としての役割を果たすことが大切なんだと思います。そして、私たちが本当に平和を希求するのであれば、お互いのことを認め合い、相手のよいところ、悪いところすべてを愛すべきでしょう。（イエスキリストと同じように）そのためなら、私たちがどんなに弱くとも、神様が力を与えてくださるのです。次に命についても、神様が力を与えてくださるのです。親はもちろん、自分の事を思ってくれる人々、そして神さまのものでもあるのです。だからそんないのちを簡単に捨てることは赦されません。せつなく自分を大事に思ってくれる人がいるのだから、そんな人々との出会いを大切にしたいです。私にとつての「いい自分」を育てていくことが大事なんです。そうやって自分を大切にできる人は他人のことも大切にできると思うのです。今回のサマーバイブルスクールでは、「あつていい違い」「あつてはならない違い」について考えました。私たちがみんな違いの中に生きていくので、自分の基準や価値観で物事を判断してしまいがちになってしまっています。そんな違いの中にも「あつていい違い」「あつてはならない違い」があります。ここでその一例をあげたいと思います。まず、「あつていい違い」は「生き方」「考え方」など根本的なものから「好きな食べ物」「趣味」など細かいものまで幅広くあります。続いて「あつてはならない違い」ですが、「飢餓に苦しむ人と裕福なのにさまざまな面で無駄使いをしようとする人の違い」といった現在の世界を象徴するような意見が多く出ました。ただ、中には「違い」という考えを持つことが偏見であり、差別であるという考えも出ました。最後に、これらのことを考えてきて思ったのは、今、現在、世界は決して平和な状態ではないが、私たちがひとりひとりが心がけて、平和に対する意識の違いで世界中のみんなが本心に心から笑える日がいつか絶対にくるといふことです。だから、いつかくるであろうその日のために平和についてもっと考えて、そして、少しでも平和になるようにつとめていきたいです。

平和聖日に参加された方より

平和聖日に「一緒にして 伊藤 直美

以前からチャンスをつとめて参加してみたいと思っていた教会の平和聖日に今年も念願叶って一緒にさせていただきました。今年も敗戦六〇年目、そして昭和一九生まれの六一歳、夫は天国に行き、孫が一人います。戦争が終わってからのこのくらい年月が経ったことを思い出します。海老坪先生のお話を聞いて、あの戦時中にキリスト者として難しさを改めて教えられました。その時大人だったから、心が寒くなりました。シャローム会特製のランチをばさんで教会学校の生徒による平和についての発表です。各クラスとも生徒たちが理解できる自分たちの言葉で平和について勉強されていてとても自分たちの言葉で平和について勉強された。私は自分ならサムエルクラスの仲間にはいってみたいなあと思いました。それからノアクラスのテキストで、自分も考えてみました。私たちががう価値観を認めなくてはいけません。私たちが夜祈る時です。私がお守りくださったことが一つと夜祈る時です。海が沖繩が大好きです。沖繩が近づくと心弾ませて見えていますが、これからはこの海の底にはたくさん飛行機のエンジンが六〇年もさけび声を上げていくことを想い目を凝らし耳を澄ませて祈りながら通ることにします。平和聖日のご準備された先生方ありがとうございました。

平和の尊さと厳しさ 大瀧 仁志

六〇年間も戦争を体験せずに平和に暮らしてきながら、その基盤となつていく平和憲法が崩壊してきながら、その傾向にある種の必然性が感じられる。それがわが国、日本。この国のこれまでの平和と繁栄は軍備にかかる経費をよその国に肩代わりをしてもらつて過ごしたために実現した。そのツケは様々な外圧となつてわが国の政治、経済に及ぼしている。戦争によつて利益を得ようとする国に追いついていけば、世界は混乱し、わが国も戦争に巻き込まれる。キリスト教徒がたつた〇・八%しかない国で、キリスト教徒としてなができるのか。キリスト教徒も仏教徒もイスラム教徒もすべて一体とならなければ世界平和は保てない。いま何をすればよいのか。友達同士で平和、平和と唱えていても、世界にはなにもたつたらない。全ての宗教を超え、すべての国家を超えた世界平和に対する共通理念を確立し、それを世界に広める行動を起こさねばならないだろう。愛と平和の神、主イエスキリストを信じ、世界に向かって積極的な行動をとろう。 Take our action!



シャロームタイムズ

2005年8月14日(日)発行
 宗教学人
 野毛山キリストの教会
 〒220-0042 横浜市西区老松町30番地

平和を感じるとき

- 朝ねぼうできるとき
 - ホットケーキを食べているとき
 - 絵をかいているとき
 - 歌をうたっているとき
 - 心配がないとき
 - 不安がないとき
 - 友だちと話をしているとき
 - 心配や不安をだれかに聞いてもらったとき
 - まちがいや素直にみつめられたとき
 - おかしいことを それはおかしいって 言ったとき
 - みんなで一緒に何かをつくっているとき
 - 美しい街並みをみるとき
 - 大好きな人が幸せそうなきとき
 - 世界の子どもの笑顔をみるとき
 - だれかと希望を語りあっているとき
- あなたが平和を感じるときはどんなとき？

ノアグループ

小学校五・六年生

おともだちにしてほしいこと

- ・「おともだちになろう」って言ってほしい
- ・『バカ』っていわないでほしい
- ・おとしよりにやさしくしてほしい
- ・わたしがおはなしをしたら、きいてほしい
- ・らいねん、しょうがっこうになったときに、けしゴムをつかうじゃん？ そのときに、けしこむがなかったら、ともだちががしてあげたい
- ・みんなとなかよくして、はやくへいわにみんなでいたい
- ・どんなことがあっても、ずっとともだちでいてほしい
- ・なまえを「かいぞう」しないでほしい

おともだちにしてあげたいこと

- ・こわがっていたら「がんばって、だいじょうぶだよ」ってこえをかける
- ・いじわるされていたら、いじわるしているのに、「いじわるしちやだめ」って言う
- ・おともだちがいないとき、たすけてあげる
- ・けんかしたときに、すなおにあやまってあげたい
- ・みんながあそんでいるとき、ひとりだけさびしくてあそんでいないことがいたら、ともだちになつてあそんであげたい

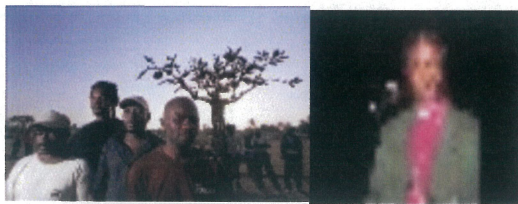
サムエルグループ

小学校一・二年生

人にしてもらいたいと思うことは何でも、
 あなたがたも人にしなさい。
 マタイによる福音書7章12節

オリフグループ

小学校三・四年生



4人の芸術家

ディーニ司教

世界中のたくさんの人は、平和だ話をするだけの人ではなく、ほんとは話してやるべき人がある。みんなの身近で起こるけんかは、自分からあやまることではなく、自分からあやまらなところ、オリブの葉が落ちてきたとき、自分が多からず、みんなの答えを待たないで、自分が正しいと思っただけで、みんなが何をかかしてあげるのを待つことではなく、ディーニ司教や『いのちの木』を作った芸術家のように、あなたが平和にするか、あなたが行動するかを考えることが大切だ。

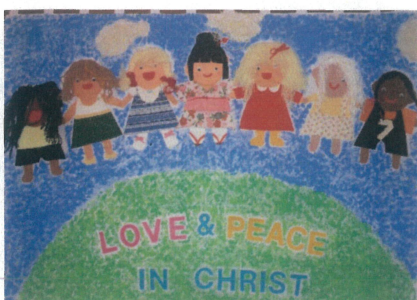
この本の中心となつているのは、『いのちの木』と呼ばれる木です。この木は、モザンビークの戦争で使用された武器を壊して作られていて、平和のシンボルとなつています。戦争が終わった後の国内は、武器を使った犯罪が多く、平和ではありませんでした。それを知ったディーニ司教が、武器をなくして生活をよくするために、武器を必要の道具と交換する計画をはじめました。そして、この計画によって集められた武器を使う、四人の芸術家たちが『いのちの木』を作りました。その結果、武器が減り、生活がよくなり、平和へと近づけることができました。

この本の中心となつているのは、『いのちの木』と呼ばれる木です。この木は、モザンビークの戦争で使用された武器を壊して作られていて、平和のシンボルとなつています。戦争が終わった後の国内は、武器を使った犯罪が多く、平和ではありませんでした。それを知ったディーニ司教が、武器をなくして生活をよくするために、武器を必要の道具と交換する計画をはじめました。そして、この計画によって集められた武器を使う、四人の芸術家たちが『いのちの木』を作りました。その結果、武器が減り、生活がよくなり、平和へと近づけることができました。



いのちの木

キリストの平和がありますように



違いの中で生きている私たち
 それぞれの違いを豊かに
 みんなが仲良く過ごせる
 世界が来ることを願って…
 (ジュニアチャーチ)

